

Acronis Backup & Recovery 11.5

Linux (RHEL6.3 LVM) + KVM (RHEV) 簡単 P2V ガイド

2012 年 12 月 17 日 ver1.0 [初版]



KVM (RHEV) 仮想環境

移行対象マシンにおけるイメージ作成手順

- 1. ドライブに CD/DVD をセットして、マシンを起動します。
- 2. しばらくすると右のような画面になりますので、Acronis Backup & Recovery 11.5 (64 ビット)をクリックします。



①「ツール」、「ボリューム表記の変更」を選択します。



②ボリューム表記を「Linux 形式による表記」に指定して、「OK」をクリックします。



3. 次の画面で「今すぐバックアップ」をクリックします。



4. バックアップタスク作成画面が表示されます。

バックアップする項	派抚解除	◎ディスク/ボ	Un-4:	項目の非表示。	-3
H	選択解除	@ディスク1	localhost		
◎除外の表示 バックアップの保存	ŧ	Ą			
ロケーション © アーカイブのコメご バックアップ方法	必須 ノトの表示				
バックアップの種類: ベリファイ: バラメータ	完全 ▼ オフ ▼				
バックアップ オプ ション	デフォルト				

- 5. 「バックアップの対象」-「バックアップする項目」をクリックし、バックアップ対象となる ディスクまたはパーティションを選択します。「OK」をクリックして画面を閉じます。
- 「バックアップの保存先」下の「ロケーション」をクリックし、保存先を指定します。
 「OK」をクリックして画面を閉じます。
 ※バックアップしようとしているディスクまたはパーティションと同じ場所を保存先として指定しないでください。

7. 画面右下の「OK」ボタンをクリックし、バックアップタスクを開始します。

バックアップする項 日	選択解除 ●ディ	マク/ボリューム:	項目の非表	R 🛞	
	選択解除 《ディ	スク1 localhost			
 					
ロケーション	名前: アーカイブ(1) パス: W192, 168, 0, 66%	backup\(ネットワーク;	共有)		
◎ アクセス ログイン情	報、アーカイプのコメ	メントの表示			
パックアップ方法					
バックアップの種類:	完全				
ベリファイ:	オフ・				
バラメータ					
バックアップ オプ ション	デフォルト				
			4		

8. バックアップ処理が開始されます。完了すると正常終了と表示されますので、「閉じる」をクリックして画面を閉じます。



これでイメージ作成は完了です。

CD/DVD を取り出し、マシンを再起動してください。

移行先へのイメージ展開手順

- 1. ISO ストレージドメインに Acronis Bootable Media の iso イメージをアップロードします。操作は管理サーバーで実施します。
- # rhevm-iso-uploader -i ISO upload ABR11.5AL_ja-JP_32308Boot.iso

Please provide the REST API password for RHEV-M (CTRL+D to abort) :

2.KVM (RHEV) 仮想環境上で、仮想マシンを作成します。

①「Virtual Machines」タブを選択して、「New Server」をクリックします。

Data Centers Clusters I	Hosts Storage	Virtual Machines	Pools	Template	es
New Server New Desktop Edit Rei	move] 🕨 🖷 🔳	Migrate	Make Template	Export M	ove
Name	Cluster	Host	IP Address	Memory	С
No results found					

②New Server Virtual Machine の登録画面が表示されるので、必要な項目を入力します。

New Server Virtual M	lachine	0
General Console	Data Center: Host Cluster:	Local
Host High Availability Resource Allocation Boot Options Custom Properties	Name: Description: Based on Template: Memory Size: Total Cores: CPU Sockets: Operating System:	RHEL63x64 Blank 4 GB 1 1 1 1 Red Hat Enterprise Linux 6x x64
		OK Cancel

③Console の Protocol: を"VNC"に変更して、「OK」をクリックします。(マウスの操作性が改善されます。)

New Server Virtual N	Machine			8
General	Protocol:	VNC		
Console	USB Policy:	Disabled	V	
Host	「			
High Availability				
Resource Allocation				
Boot Options				
Custom Properties				
			ОК	Cancel

④仮想ネットワークデバイスを設定します。「Configure Network Interfaces」をクリックします。



⑤Type:Iこ「Red Hat VirtIO」を選択して、「OK」をクリックします。



⑥次に仮想ディスクを構成します。「Configure Virtual Disks」をクリックします。



⑦ディスクのサイズを指定します。Interfaceは「VirtIO」を指定して、「OK」をクリックします。



⑧設定が完了したら、「Configure Later」をクリックします。



⑨VM が作成されます。右クリックして、「Run Once」をクリックします。

RHFL63x64	🚍 Loca	L		0%
KHEL63X64	E Loca		New Server New Desktop Edit Remove	
			Run Once Run	

①「Attach CD」にチェックを付けて、アップロード済みの Acronis Bootable Media の iso イメージを指定します。
 設定が完了したら「OK」をクリックします。

Run Virtual Ma	achine(s)
Boot Options:	
🔲 Attach Floppy	virtio-win-1.4.0.vfd 💌
🔽 Attach CD	ABR115AL ja-JP_32308E 💌
Boot Sequence: Hard Disk CD-ROM Network (PXE)	
🔲 Run Stateless	
🔲 Start in Pause	Mode
Linux Boot Option	s:
kernel path initrd path kernel params	
Custom Properties	
Display Protocol VNC Spice	
	OK Cancel

①VM が起動します。コンソールを開くため、 **!** *! を*クリックします。

Data Centers	Clusters	Hosts	Storage	Virtual Machines	Pools	Template	es Us	sers	Events	Monitor
New Server Ne	w Desktop Edit	Remove		🖳 🚽 Migrate	Make Template	Export Mo	ove 📘 🛓 🤇	Guide Me	ssign tags	<prev next="">></prev>
Name		C	luster	Host	IP Address	Memory	CPU	Network	Display	Status

- 3. 仮想マシンを CD/DVD から起動します。
- 4. しばらくすると下記ような画面になりますので、Acronis Backup & Recovery 11.5 (64 ビット)をクリックします



①「ツール」、「ボリューム表記の変更」を選択します。

* Astonis Backup & Reco	weby ILiりー ionの としてこのコンピュークに接続で	1一方乃得到5	
日日 ※アクション・	※ツール・ 国ナビゲーション・ シヘルプ・		Acronis
'localhost' へようこそ コンソールは管理対象の:	 ③ ネットワークの設定 ◎ ボリュ ム表記の変更 	こは使用するツールを選択してください。	
今すくバックア バックアップ E ビュータのバッ	● Acronis リカハリ マネーシャのアクティフ化 ◎ iSCSI/MDAS デバイスの構成 ● Universal Restore の適用	作成されたバックアップ 一夕を復元します。	
シンション いhiversal Restore ナビゲーション 〒 テーア管理	の 適用 🍋 格納城の 参照		

②ボリューム表記を「Linux 形式による表記」に指定して、「OK」をクリックします。



5. 次の画面で「復元」をクリックします。



6. 復元タスク作成画面が表示されます。



7.「データの選択」をクリックし、「アーカイブビュー」から保存済みのバックアップデータを指定します。



①LVM(論理ボリュームマネージャ)によって作成された MD デバイスやボリュームの復元では、

対応するボリューム構成が再作成されることが前提です。

ボリューム構成を確認し、「RAID/LVM の適用」をクリックして作成します。



8. Universal Restore for Linux を「使用する」に変更します。



画面右下の「OK」ボタンをクリックし、復元タスクを開始します。復元処理が開始されます。
 ※マシンの電源は切らないでください。

タスク	バックアップ 設定 3	单行状况 雕歴		
9.詳細 (停止	and the second distriction		
名前		コンピュータ進行状況	191981	
のディス	クまたはポリュームの復元	localhost 41%	12/12/16 16:40:10	
	× 'ディスクまたはオリュ	ームの約天 詳細		
	アクティビティ・ディス・	ウまたはポリュームの復元 の詳細	語の表示	
	9Y90 0 6			
	5440	12712707070707070707070707020	20	
	名前:	ディスクまたはボリュームの復分	ī.	
	説明 :	ディスクおよびボリュームを復う	こしています。	
	進行状況:	41%		
	開始日:	12/12/16 16:40:10		
	復元中:	ラベルなし		
	経過時間:	49 秒		
	残り時間:	1 秒		
	速度:	83,33 MB/秒		
	復元済みのファイル数:	0		
	復元済みのバイト数:	3,738 GB		

 10. 復元処理が完了すると、正常終了と表示されますので、「閉じる」をクリックして画面を閉じます。
 ※ 警告を伴う正常終了と表示される場合がありますが、異なる環境への復元処理を実行していることが 理由となります。この警告は無視して頂いても問題ありません。

これで復元(P2V)は完了です。 CD/DVD を取り出し、マシンを再起動してください。